

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 2 月 20 日 (2020.2.20)

【公表番号】特表 2017-537668 (P2017-537668A)
 【公表日】平成 29 年 12 月 21 日 (2017.12.21)
 【年通号数】公開・登録公報 2017-049
 【出願番号】特願 2017-517731 (P2017-517731)
 【国際特許分類】

A 4 5 D 34/00 (2006.01)

B 6 5 D 45/20 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 34/00 5 1 0 A

B 6 5 D 45/20

【誤訳訂正書】
 【提出日】令和 2 年 1 月 7 日 (2020.1.7)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 5 7
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 5 7】

たとえば、ベースは、少なくとも 1 つの結合部材が、蓋がベース上にある状態で第 1 の位置にあるとき、蓋の結合プレートがベースに対して正しい位置に置かれていることを保つように構成された少なくとも 1 つのリブを備える。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 9 4
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 9 4】

支持体 4 0 0 は、キャップ 5 に向かって正しい位置に置かれるように適合された上側面 4 0 1 と、上側面 4 0 1 に対して平行であり、ベース 2 に向かって正しい位置に置かれるように適合された下側面 4 0 2 (図 1 1 に見ることができる)とを備えると、ここでは考えられる。

【誤訳訂正 3】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 1 1 6
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 1 1 6】

各々の結合部材 4 1 0 は、爪 4 1 1 および戻りアーム 4 1 2 を備える。この例の実施形態では、爪 4 1 1 および戻りアーム 4 1 2 は、支持体 4 0 0 の中心に向かって正しい位置に置かれながら結合部材 4 1 0 の背部壁 4 1 3 の同じ面から延びる。換言すれば、各々の戻りアーム 4 1 2 は、たとえば支持体 4 0 0 の半径に沿って延びる。結合部材 4 1 0 は、したがって、支持体 4 0 0 の縁を取り囲んで、C 形状にされる。戻りアーム 4 1 2 は、ここではたとえば、指形状にされ、自由端部と、背部壁 4 1 3 にリンクされた端部とを備える。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 7】

静止位置では、少なくとも1つの爪4 1 1は、くぼみ2 0 2内に係合される。キャップ5および結合プレート4は、互いに対して正しい位置に置かれ、それにより、軸方向カム5 0 4の少なくとも1つの突出活性ゾーン5 0 5は、各々の結合部材4 1 0の戻りアーム4 1 2が高位置になるように、少なくとも1つの結合戻り部材4 1 6に対して配置される。換言すれば、軸方向カム5 0 4の少なくとも1つの突出活性ゾーン5 0 5は、少なくとも1つの結合戻り部材4 1 6の変形を引き起こさず、または少なくとも爪4 1 1をくぼみ2 0 2から離すには不十分な変形しか引き起こさない。結合戻り部材4 1 6、ならびにキャップ5を静止位置配向になるように結合プレート4に対して自動的に戻すように働く位置戻り部材4 0 7は、次いで、最小の変形の自然な、中立の構成にある。結合戻り部材4 1 6が2つの波形座金を備える図1 0に表される場合では、軸方向カム5 0 4の突出活性ゾーン5 0 5の各々の頂点は、次いで、上側波形座金のトラフ4 1 8と向かい合っており、下側座金の隆起部の反対側にある。キャップが示されない図4では、結合戻り部材4 1 6は、単一の波形座金を備え、軸方向カム5 0 4の突出活性ゾーン5 0 5の各々の頂点は、このとき波形座金のトラフ4 1 8と向かい合っている。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 4 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 4 1】

所定の圧縮は、キャップ5と結合プレート4の間の所定の回転角度、および戻りアーム4 1 2の所定の降下に対応する。この例の実施形態では、突出活性ゾーン5 0 5の頂点は、キャップ5が静止位置に対して約4 5 °回転するたびに波形座金の隆起部4 1 7の頂点に到達する。したがって、小さくなり得る所定の圧縮に対して、回転角度は、たとえば0 °から4 5 °の間に含まれる。したがって、所定の圧縮は、たとえば、結合プレート4に対して、4 0 °、またはさらに3 0 °、またはたとえば好ましくは1 5 °の回転をキャップ5に与えることが必要であるように固定され得る。プレート4に対するキャップ5の回転は、ベース2上に正しい位置に置かれたプレート4を維持することに寄与する、ベース2のネック部上のシール接着によってより一層容易にされる。各々の結合部材4 1 0は、次いで、傾斜運動を有し、すなわち戻りアーム4 1 2の自由端部は、対応する量だけ下げられ、爪4 1 1はくぼみ2 0 2から離れる。